

富山城跡

現地説明会資料

富山市教育委員会埋蔵文化財センター

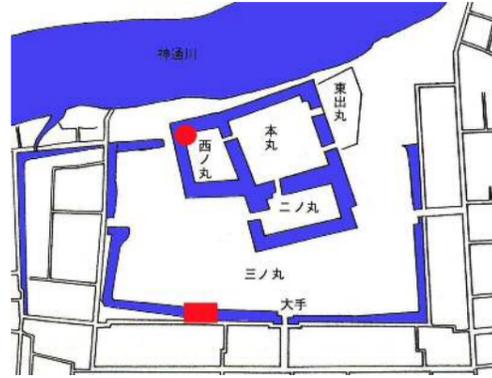


図1 寛文期富山城縄張図

1. 事業原因：旧総曲輪小学校跡地活用事業
2. 事業主体：富山市企画管理部企画調整課
3. 調査主体：富山市教育委員会埋蔵文化財センター
4. 発掘機関：北陸航測株式会社
5. 調査面積：1,562 m²
6. 調査期間：平成 26 年 10 月 30 日～平成 27 年 3 月 31 日
7. 発掘調査の成果

- ・三ノ丸外堀跡の初めての調査（図1■）。
- ・江戸時代古絵図のとおり、大手から西へ向かって堀幅が段々と広がることを発掘で確認。堀の上端で、東側が約 22m、西側が約 28m。
- ・外堀跡は、三ノ丸側を深く掘り込む二段掘りの構造（箱堀の構造ではない）。
- ・外堀の深さは、現地表面から途中の段までは約 3.7m 下で、堀底は約 5.0m 下で幅約 8m。
- ・外堀の三ノ丸側のり面角度は、35～40° で、内堀のり面角度（平成 23 年度西ノ丸北西部調査・図1●）と同様。
- ・途中の段から堀底にかけての堀底面直上の全面に礫の堆積層（約 20cm）を確認。
- ・土塁を崩して埋め立てた痕跡はあるが、のり面付近にわずか。明治期の埋め立てにはあまり使われなかったと思われる。堀上部は、砂で埋め立て。
- ・明治期の埋め立て時に、北側の地境として石組水路を設置している（図2）。



外堀全景（北西から）

写真

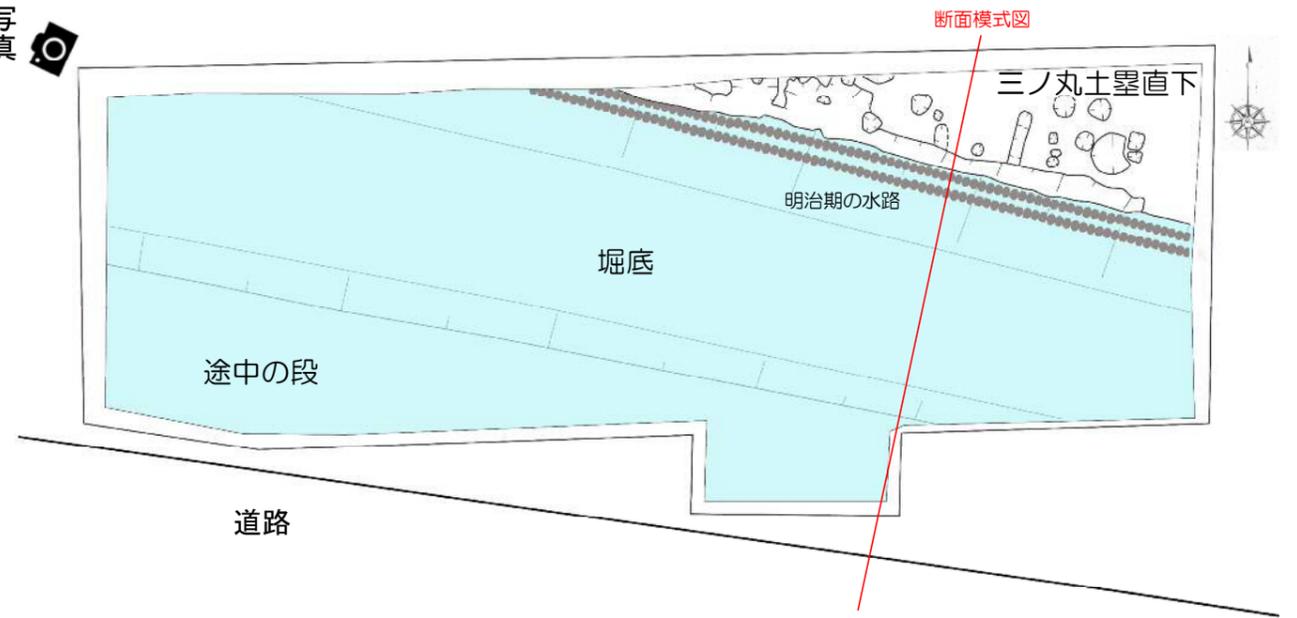


図2 遺構概要図（1：400）

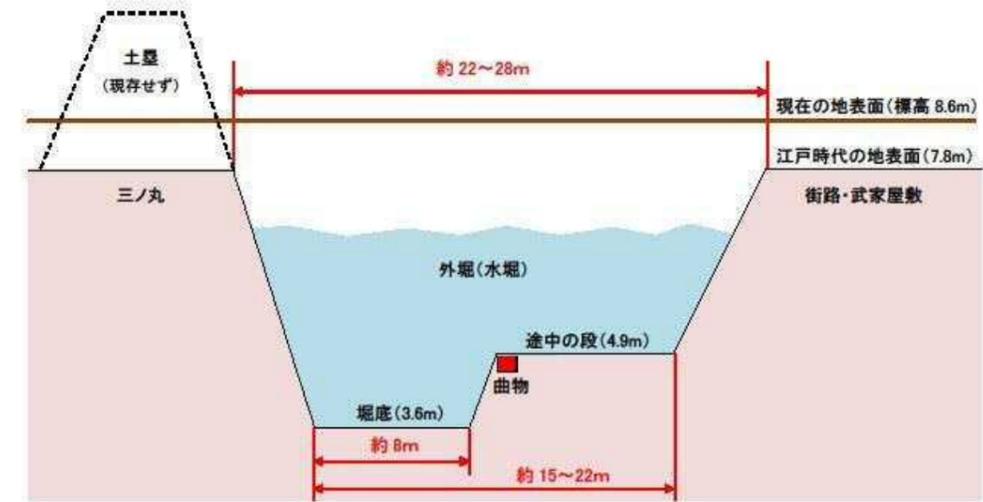


図3 断面模式図



図4 「万治年間富山旧市街図」（部分）（1663～1666年頃）[富山県立図書館蔵]

8. 出土遺物

かわらけ、越中瀬戸、伊万里、唐津木製品（漆器・下駄・曲物）、埴塙銅製品（鶴亀燭台（阿）・鏡）

9. 堀底の曲物

- ・途中の段の底に曲物が埋められていた。
- ・曲物とは、ヒノキやスギなどで作った円形の容器で、井戸の水溜めに使う。
- ・井戸とすれば、上にあるはずの上部構造がなく、その痕跡もなかった。
- ・このため、外堀を掘った当初に設置された可能性が高い。
- ・堀の水は、四ッ屋川などから給水していたが、この曲物は、地下水を利用するために設置した可能性がある。



曲物（矢印の位置）